

ライフプラン情報

2014.7月号 Vol.74

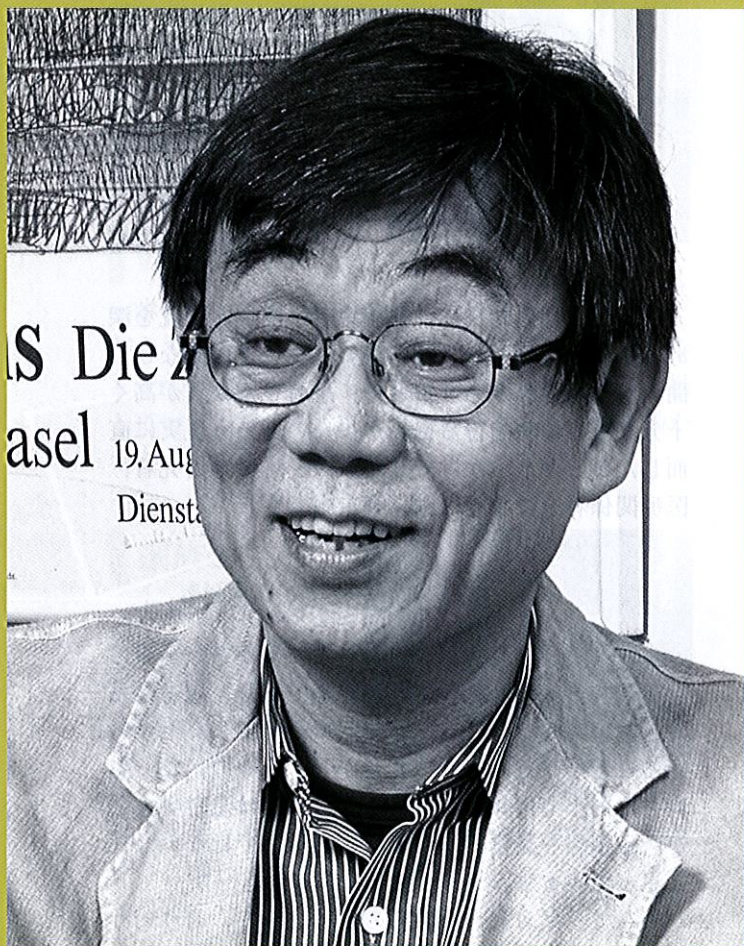
新しい生き方みつけませんか？

「ライフプラン情報」では、生活設計を考えるうえで必要な**3K**

“健康(K)” “経済・家庭(K)” “いきがい・心(K)” についての有益な情報を提供していきます。

Contents

- 表紙写真 1
NPO法人オール・アバウト・サイエンス・ジャパン
代表理事 西川 伸一氏
- いきいきと輝く人⑨ 2・3
西川 伸一氏
- 神戸いきいき勤労財団の主な事業紹介・・・ 4
生きがい活動ステーション紹介
- 受講生募集のご案内 5
 - ①いきいきシルバーのつどい
 - ②退職準備セミナー
 - ③秋季講座募集
 - ④コミュニティビジネス実践講座
- 生涯現役セミナー 6
- ワンコイン募金講座 7
- 生涯いきいき情報センター通信 ... 8
- 編集後記 8



NPO法人オール・アバウト・サイエンス・ジャパン
代表理事 西川 伸一氏

私の金言

自由・平等・平和

いきいきと輝く人⑨

「いきいきと輝く人」シリーズの9回目は、難病の患者さん等を支援する活動をされている団体にスポットを当て、神戸で活躍している NPO法人オール・アバウト・サイエンス・ジャパン 代表理事 西川 伸一氏 にインタビューしてきました。お仕事のお話からプライベートなお話までお話をいただきました。

研究生活から一転 ～AASJを立ち上げるまで～



35年間続けた研究生生活を引退するとともに、平成25年4月に患者団体等の活動を支援するNPO法人「オール・アバウト・サイエンス・ジャパン」を立ち上げました。行政側、研究者側ではなく、患者側に立った情報発信や患者会活動の支援などを行うためです。

それ、理研時代に、難病患者の団体と交流を深める中で、患者数の少ない病気については薬などの開発が敬遠されがちなことや、患者さんが質が高く十分な量の情報を得る機会が少ないという現実と直面したことがきっかけでした。今、患者と研究者、医療関係者をつなぐ活動に奔走中です。

患者さんへの情報発信の必要性

現在は専門家や行政が患者さんに何かを伝えるという、一方的な情報の流れが普通であり、患者さんも、医療情報は医者や、新聞記事、テレビなどから得ることがほとんどです。しかし、そうではなく患者さん同士で情報を交換する、もしくは患者会などが医療情報を発信できるようにすべきではないか、と思っています。

そして、私自身もそちらの側に立って、そういう患者さんの役に立ちたい。それを実現する具体的な場がAASJです。

このような考えに至った経緯は、理研の研究者として、神戸市とともに取り組んだ先端医療センターの経験が大きいです。公費が投入されているので、研究をするだけではなくその研究が患者さんのところにどのように届くかが問われました。すでに米国では、患者団体が研究に何百億円も援助し、医学の学会では患者さんがブースを設け医者と対話しています。情報も発信しています。新薬の治療では患者団体の間に入り、スムーズにことが運んでいます。

具体的には…

孤立しがちの患者さん達が市民社会に開かれ、集まって力を持てるためのお手伝いができるよう、ネット上でソーシャルネットワークを作ったりイベントも企画しています。また、患者さんや一般市民と医療の専門家とのコミュニケーションをスムーズにする活動もしています。患者さんは固唾をのんで専門家からの新しい情報を待っています。この情報が正しく伝わるようなお手伝いをしたいと思っています。そして広い視野を持った専門家の養成を手伝います。専門家が本当に患者さんや市民と連携するためには広い視野が必要なので、良書を企画したり、翻訳しているところです。

これからのAASJ

患者さんが見やすいコンテンツをつくるのがテーマです。専門的な話をコモンズ（社会の共有物）にするのです。専門的なもののほど市民の共有物になりにくい問題がありますが、患者さんが直接触れられるようなものを目指しています。それは、医者も患者さんも願っていることです。

仕事の哲学とは

楽しく仕事をするということをモットーにしています。楽しく面白く仕事をすることで仕事へのストレスが軽減されます。ストレスを感じることはないので、医者も研究もこれまで続けてこれました。ストレスをためないことも仕事をする上で大切なことではないでしょうか。



オフィスで働く様子

現役を引退して変わったこと

研究生活から一線を退いたことで、マネージメントから解放され肩の荷が下りました。

下の人のことを一生懸命考えていた現役時代はそれはもう大変でした。マネージメントもそうです。研究費を取ってくるといういわゆる中小企業と同じ苦しみがありました。今はそのようなことから解放され、自分の好きなことに没頭できる楽しい毎日です。

一心不乱にものごとに取り組むことの大切さ



豆をまぜるおばあさん

現役時代を引退し、今はやりたいことを一心不乱にやりたいと思っています。バリ島の写真をご覧くださいとこのおばあさんは一心

不乱にコーヒーの豆を混ぜています。この豆はジャコウネコが食べて排泄された豆なのです。香りがとてもよく最高級の豆です。コーヒー豆一つにそこまでこだわり抜くのです。私はこの一つのことによって一生懸命取り組む姿が大好きです。豆をひたすら混ぜているだけに見えますが一心不乱に一つのこと集中しているおばあさんの頭の中では色々な考えが生まれている可能性があります。一心不乱に物事に集中できることは大事なことです。

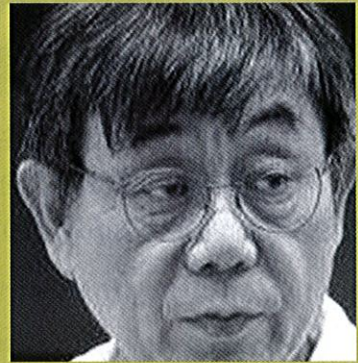
休日の過ごし方

音楽を聴きに行くことが好きです。ジャンルを問わずクラシックならすべて好きです。オペラは新国立劇場は欠かさず聴いています。近くでは、夏になると短パンと雪駄で聴きに來る大阪ならではの庶民性を感じられる大阪フィルハーモニー交響楽団の演奏会もおもしろいです。頼まれて、スタイナートリオという演奏グループの後援会長もしています。スタイナートリオは京都大学の理学部の学生だった友人の子息が今プロとして頑張っているといくとしていたので応援してあげたいと思っています。

また、本を読むことが好きです。本を書こうと思ったら、まず読まないといけないと思っています。年寄の友には文字が大きくなって、持ち運びが便利な電子書籍がおすすめです。

NPO法人オールアバウト・サイエンス・ジャパン 代表理事

西川伸一氏



1973年 京都大学医学部卒業。
1987年 熊本大学医学部教授。
1993年 京都大学医学部教授を歴任。
2002年 理化学研究所 発生・再生センター副センター長。
専門は幹細胞生物学。
2013年 NPO法人AASJを設立。
患者さん中心の医療体制の確立を目指している。

健康の秘訣

歩くことを毎日の日課にしています。妻と朝早く起きて6キロの距離を1時間かけて神戸の街を散歩します。理研の時代も電車を使わず研究所まで通勤していました。薬はあまり飲みませんが、体を動かすことは大切だと思っています。

家族のこと

妻とは大学時からのつきあいです。妻は大学を卒業してから教諭をしていましたが、途中で辞め、ずっと一緒に研究を



続けてきました。今は一緒にAASJを運営しています。仕事もプライベートもずっと一緒です。

座右の銘

座右の銘はありませんが、あえて挙げるなら「権威を排する」です。権威は嫌いです。

ライフプラン情報読者に伝えたいこと

22世紀は大きく変わります。それに備えるために人々の助け合いがとても大事になっていきます。協力社会ができることを若いひとにも伝えていきたいです。